

広島県立尾道北高等学校 令和2年度第2回学校運営協議会 会議録

本校の学校運営協議会を次のとおり開催した。

開催日時	令和2年10月15日(木) 15:10~16:50	開催場所	尾道北高等学校 会議室
出席委員	<p>出席委員人数：6人 委員氏名(役職)</p> <p>砂田 勝(元尾道北高等学校長) 林原 慎(福山市立大学教育学部教授) 山北 篤(本校同窓会長) 瀬戸 務(本校PTA顧問) 小原 正啓(長江中学校長) 藤本 秀穂(尾道北高等学校長) <本校教職員：17人></p>		
会議の概要	<p>1 開会行事 (1) 校長挨拶 (2) 学校運営協議会副会長挨拶</p> <p>2 学校説明 (1) 今年度体育祭について(生徒指導部) ①新型コロナウイルス感染防止、3密を避ける ・無観客、保護者にはLIVE配信、ドローンの導入 ・種目を変更 ・クラスメントを増やして密を避ける ・マスク着用 ②アンケート結果は肯定的 (2) チューター制の導入等について(生徒指導部) ①第1回(校歌指導) 2年生→1年生 ②第2回(応援団) 3年生→1年生 ③第3回を計画、来年度は指導の場面を4月から増やす。 (3) 1学年「産業社会と人間」紹介(教育研究部) ①「尾道いきいきプロジェクト」(案) ・地域←→高校(例：尾道市役所、商工会議所、尾道の各企業、尾道のNPO法人) 情報提供、高校生として取り組めるもの、アドバイス</p> <p>3 協議(司会：林原副会長) (1) 議題「本校の学びと地域との関わりについて」 ①地域として尾北生に期待すること、情報発信等の意見交換 ア 尾道市長様の講演を聞いての生徒の感想 ・自分たちは激動の中に暮らしている ・「世界を視野に入れる」に衝撃を受けた ・尾道のために何かをしていきたい イ 世界を視野にした時、高校生にどのようなことができるか ・小原：尾道の自然を探究するとおもしろいのでは。ふるさとの自然を知る子どもは、故郷を愛するようになる。 ・瀬戸：「エンパワー」などすでに行っていることを継続していくことも大切。 ・山北：「尾道いきいきプロジェクト」は具体的な提案をして初めて生きる。北高生が自らアイデアを出して作り上げる時に本当に意義を持つ。先生方のつながりが重要。先生方の指導次第である。</p>		

- ・砂田：尾道の課題をどう捉え教育に取り入れるかは、大変な難題である。小学校でも地域の課題は扱う。どのような具体的な提案を考えることができるか。北高の生徒が地域社会に活かされていることを知ることはキャリア形成の上でも大切なことである。チューター制をさらに進めてほしい。伝統をどのように受け継ぐか、得られた人間関係は学校生活でもよい影響を及ぼすと期待。
- ・林原：激動の時代、大学生の学びも変化した。ズームでインタビューしている。大学生（卒業生を含む）や教授とアカデミックに連携しては。
- ・山北：個人的に複数の大学で科目履修生として学んでいる。大学生でも ICT でつまづいている。北高でリモートの学び方を学んでおくことが、大学生になっても役立つのでは。このことと言えば、大学との連携が必要では。
- ・校長：大学の出前講義をリモートで行うことができれば、特色あるカリキュラムともなる。大学から直接専門的な知識を得る取組を単発ではなくシステマティックに継続的に行えないか検討していきたい。

4 中間評価について

(1) 評価指標の説明（主幹教諭）

(2) 行動計画に対する自己評価

- ①教育研究部
- ②進路指導部
- ③健康教育部
- ④生徒指導部
- ⑤ICT活用委員会
- ⑥総務部

(3) 質疑応答

Q 山北：働き方改革の中、3年生の放課後補習は可能か。

A 田中：昨年まで実施していたので可能である。

Q 山北：働き方改革の中、前後期2期制を続けるメリットは。

A 校長：改めてメリット・デメリットを洗い出し、本校に良いものを選ぶ。

授業については、量から質の転換をICTを活用して図りたい。

働き方改革についても、時代の流れからはずれないように考えていく。

Q 山北：子どもは時代が変わっていると感じている。先生方も改革を。今まで

どおりではだめ、校長がほぐしていく役割を。

A 校長：これまでも課題のオプション化などに取り組んできた。

5 閉会行事

(1) 学校運営協議会会長挨拶

本校を取り巻く状況は大きく変化している。かつての成功体験だけにのっての指導だけではうまくいかない。決められた条件の中で頑張っていたきたい。